

「芦屋から困っている人をなくしたい!」との思いを 動画とポスターでプレゼンテーション

昨年末に行われた「高校生ボランティア・アワード2020」において、甲南高等学校ボランティア委員会のメンバーが、取り組んでいる活動やボランティアに込めた思いをプレゼンテーションし、見事『SOMPOケア賞』を受賞しました。

高校生ボランティア・アワード2020 SOMPOケア賞を受賞



委員長
高校二年A組
おおかわ ゆうき
大川 悠貴さん



副委員長
高校二年A組
とくひら こうた
徳平 航大さん

「子どもから高齢者に
支援の輪を広げて」
「高校生ボランティア・アワード」は、(公財)風に立つライオン基金が運営するもので、日々ボランティア活動を実践する高校生を評価するとともに、活動に取り組む高校生同士の交流の場にもなっています。2020年度は124校の団体が参加、新型コロナウイルス感染拡大の影響もありWebサイト上に動画とポスターを掲出し、活動内容をプレゼンテーションしました。

受賞した活動は「児童の見守り活動支援と小学校・地域の高齢者支援センターにて熱中症授業」。普段、ボランティア委員会メンバーが芦屋市の小学校に足を運び、放課後の児童を見守る「キッズスクエア」の活動です。活動の一つである「熱中症の危険性や予防策を教える授業」を、高齢者にまで広げて行ったことが評価を受けました。協賛企業の



副委員長
高校二年A組
さきたに ゆうと
笹谷 勇人さん

実させています。大川さんは「活動を通して伝える力が磨かれた。50名を超えるメンバー全員のやる気を維持するためにリーダーシップを発揮したい」と、今後の抱負を語りました。現在、委員会は高齢者向けのスマホ講座やZoom交流会を実施中。今後ますますの活躍が楽しみです。

「ボランティアを通して
学びや自信を手に入れる」
SOMPOケア(株)からは「コロナ禍で社会的サービスの受けられない高齢者サービスの格差を縮めてくれるすばらしい活動」と講評をいただき、動画の再生回数も上位にランクインするなど、多くの人に関心をもってもらえたようです。

マイナスをプラスに変える発想の転換で より一層楽しく充実した、オンライン文化祭を実現!



TOP!CS

新型コロナウイルス感染防止のため、オンラインによる開催となった2020年度の甲南文化祭(学内公開のみ)。生徒たちは、ハンディを熱意とアイデアで乗り越え、今年のテーマ「To a New Konan」(新しい甲南に向けて)にふさわしい成果を披露しました。



オンラインだからこそ
できるものを!



文化祭を開いてほしい。
熱い思いが生徒会を動かした
オンライン文化祭開催の背景には、一年に一度の文化祭を何としても経験したいという生徒たちの熱い思いがありました。その願いを託された自治会総務(生徒会)の役員たちは、4月の緊急事態宣言による休校中もオンラインで話し合いを続け、文化部の代表とも意見交換。さまざまな可能性を検討した結果、本番をひと月後に控えた9月頭にオンライン開催を決定し、準備をスタートしました。展示や発表は、文化祭専用のWebサイトにアップロードし、演奏は、講堂で録画した動画をYouTubeで公開するスタイルに「絶対に質を落とさない!」という心を決めて当日を迎えたのです。

新たな可能性を示した
オンラインならではの魅力
2020年10月3日(土)午後12時。講堂から各教室にオープニングセレモニーが中継され、山内守明中学校長の挨拶とともにオンライン文化祭が開幕。その後は、各自が自宅から展示や発表を楽しむことに。閉会後、自治会総務に寄せられたのは、予想以上にうれしい感想でした。「いつもなら足を運ばないおじいちゃん、おばあちゃんも一緒に家族全員で鑑賞できた」「2日間、何度も繰り返し見た」「画面をスクロールするだけで全部の展示や発表が見られてよかった」など。オンラインならではの長所が、文化祭を成功に導きました。一丸となって取り組んだ生徒たちにとっても、大きな自信につながったに違いありません。

高校二年C組 文化祭実行委員長
生徒自治会 自治会総務文化委員長
のさか あつし
野坂 篤史さん

多くの人が「開いてくれてありがとう。思い出になった」と感謝の言葉をかけてくれました。何もかも初めてのことでありましたが、がんばってよかったです。



高校三年D組
生徒自治会 自治会総務委員長
おおかわ ゆうた
小川 優太さん

下級生にも常に意見を求めるなど、自治会総務委員長としてみんなのやる気を引き出す努力を続けました。YouTubeで配信する際の著作権チェックやWebパンフレットの制作など、幅広い経験を通して知識も増えました。